

ドイツの旅

林 興一郎

ドイツは、現役時代にシーメンスの工場などに出張したことはありますが、観光らしいことをしたことがないので、この旅は、お任せの周遊コースのツアーを選びました。日付けと場所を追って、思い出を記してみたいと思います。

H27.6.13 (土)

リュースハイムの船着き場でライン河下りの船を待つ。側を通る列車の写真を一人旅の男性が熱心に撮る。私も狙うが、シャッターの押し遅れで逃がす。乗船して、上甲板にラウンジ風に置かれた椅子に座って、河岸を眺める。小雨で景色は今一だが、左岸は家が多く、右岸は斜面でブドウ畑。兩岸とも山の中腹に古城が現れる。ローライの岩も見逃さなかった。サントゴアールで下船。昼食で向かい合った男性は、昨年、フィレンチェに7日滞在されたそう。今回も列車旅を考えたが、ライン下りのため、どこで降りたらよいか分からず、奥さんが反対されたとか。

バスでハイデルベルグへ移動。よくしゃべる、若い日本人女性のガイドが案内して下さった。ハイデルベルグは学生時代に、ドイツ語を習った教科書に出てくる景色で、懐かしい。ハイデルベルグ城は廃墟だが、特に、大薬塔が砲撃されて、大破片がずり落ちた断面が荒々しく、迫力がある。廃墟そのものが何かを物語る。ローマのフォロロマーノもそうだし、広島原爆ドームでさえも間近で見ると何かを訴えている。古城から見下ろすネッカー河と赤い屋根の町の連なりが美しい。下町に降り、ハイデルベルグ大学の学生牢を見る。壁はドイツ語の落書きだらけ。夕食になり、レーベンブロイという酒場で、ビール三昧。

H27.6.14 (日)

ローテンブルグヘアウトバーンを移動。世界中で中世の城壁が完全に残っている4か所の都市の一つ。中心はマルクト広場、地面が少し傾斜している。市庁舎が立ち、ここの屋上の眺めが良いとの評判で、階段を登る。途中で、水平移動して、更に、入り口で2ユーロ払う。急な階段を登り、最後は梯子をよじ登り、ドアから首を出すとそこは、素晴らしい赤い屋根の景色が広がっていた。先行した一人旅の男性が2ユーロの価値ありと叫ぶ。狭い通路を一周して街並みを眺める。10年前にプラハの市庁舎に登り、同じような赤い屋根の連なりを見たのを思い出す。添乗員さんが、片道15分と言っていたが、時間が早く、登り下りの譲り合いがなくて、半分の時間で下った。ここでの第一目的を果たして、後は散歩。聖ヤコブ教会に入り、リーメンシュナイダ作「聖血の祭壇」を見たが、特段の感興なし。日曜日で、ご老人がマラソンに参加して、坂を上っているのを感じて見る。次は、ピース教会を見た。緑の牧場の中にポツンと立つ。「鞭うたれるキリスト像」が涙を流した話に言われがあるとか。中は天井も極彩色でバチカン宮殿の天井を思わす。コンサ

ート中で木琴のような打楽器がよく響いた。

H27.6.15 (月)

もう南ドイツで、山が荒々しい。ホテルの窓からノイシュバンシュタイン城のある山を見ていたら、写真を撮らぬ内に霧に閉ざされた。これが雨の前兆。登山バスが少ないので、添乗員さんの提案で歩いて登る内に雨になった。城に着いて、写真に絶好の場所であるマリエン橋まで、11人中、8人が行ったが、私は雨の登山でくたびれ、降りた。本当は頑張るべきだった。城内はルートビッヒ城主好みの絵や部屋。雨の中を、傘はあっても濡れながら下った。ズボンの裾、スニーカーが濡れ、最悪。午後のミュンヘンまでのバス旅でズボンは乾いた。

ミュンヘンに着いて、自由時間があつたが、特段の予備知識もなく、市役所塔上にエレベーターで登り、街を見渡した。だだっ広い風景で赤い屋根も混じる。5時近くになり、市役所の時計仕掛けを見に人が集まる。人形が出てきて、一騎打ちをやり、一方ががくつと後ろに倒れるのが面白かった。5時15分に希望者が合流して、ヒットラーが旗揚げしたとかいう、ビアガーデン「ホップブロイハウス」へ行く。中は、広く、ごつい木製の机、椅子がずらりと並ぶ。客は一杯。私は1リットル入りのビール、家内は0.5リットル入りで、白ソーセージやシュバイネハクセ（豚の煮込み）をつまみにして、夕食。

H27.6.16 (火)

旅の中日。朝食後、ホテルの階段を上ると足の疲れを感じる。昨日、山道を往復1時間くらい、雨中を歩いたため。

レーゲンスブルクはドナウ河河畔にある。川幅が広く船が通っている。橋を渡って旧市街へ入る。大聖堂のステンドグラスが多く、高く、美しい。ひときは目立つ黄色い壁と屋根の建物が150年続いた神聖ローマ帝国の定例会議場だ。よくしゃべる福岡の一人旅の女性は67歳、60歳から旅を始め、70歳までに100か国目標という。健康にも気を付け、写真もよく撮り、旅慣れたファイト女性だ。

ニュールンベルグへ着き、カイザー城に入り、甲冑など見る。ニュールンベルグはハプスブルグ家の町で、カール5世、マクシミリアンの名がよく出る。画家デウラーはこの町の英雄で立像がある。夕食のニュールンベルグソーセージは細目でからい。ビールには良い。ビールを飲まない時がない。

H27.6.17 (水)

ライプチヒへ4時間のバス旅。車窓にいくつもの風車を見る。現役時代に風車にも関わったので、どこ製か気になる。ベスタス製が多い。ライプチヒでの昼食は、森鷗外もゲーテも馴染みの「アウアーバッハスケラー」、地下の広い店内に座り心地の良い椅子がある。壁に、鷗外、井上哲次郎ほかを描いた大きな絵が掛かっている。鷗外は袴姿である。バッハが指揮したトーマス教会では、パイプオルガンがよく響いていた。バス待ちの間、

バッハ博物館横のカフェで、のんびりコーヒーを飲んだ。旅も後半、落ち着きを感じる。

H27.6.18 (木)

ドレスデンの朝。小雨。この街は期待していたが、雨模様で、景色がくすんで、暗い。第二次大戦で爆破されたフラウエン教会の破片を集めて、再建したのを見た。ツビンガー宮殿など、巨大な建物が多い。建物の壁に彫り込んだ「君主の行列」も見栄えはある。エルベ河の水量が少なく、ブリュールテラスと呼ばれる川岸の高台からの眺めは今一つだった。美術館の立派なのが、あるが、ツアーには組み込まれていない。

アウトバーンを3時間走り、ベルリン着。

ブランデンブルク門をじっくり見る。ベルリンの壁は本物が残してある。1 m幅のコンクリートが置いてあるだけ。それが100 mもあろうか。ウンターリンデン通りの菩提樹の幹が思ったより小さい。ベルリンは見るところが多いが、ツアーではままならぬ。

H27.6.19 (金)

ポツダムのツェツイリエンホーフ宮殿はポツダム会議の場で、スターリン、チャーチル、ルーズベルトが日本のことを決めた。原爆投下の解説がきこの雲の写真と共にあり、楽しい場所ではない。

ベルリンに戻り、ホテルで解散。午後の自由時間をベルガモン博物館にするか、絵画館にするか迷い、ホテルから歩いて行ける絵画館にした。今回の旅では、美術館が一つも入っておらず、飢えていた。宗教画はどんどん見過ごし、フェルメールを見つけた。2枚あった。グラスでワインを勧め、女を口説く絵と女が光の中でぼーっと立っている絵。ブリュールゲルも2枚あった。レンブラントは小品ばかり。

外に出ると目前に美しいベルリンフィルの建物の屋根が、尖って、でこぼこして、黄金色に輝いていた。ここでいつかオーケストラを聴きたいもの。

以上です。お粗末様。